

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立戸祭小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語94人

② 算数94人

5 留意事項

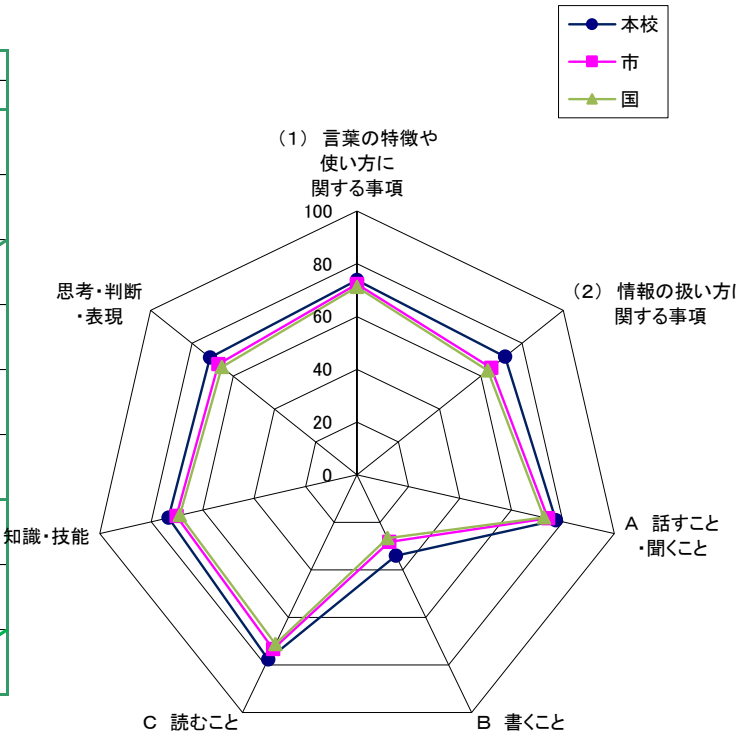
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立戸祭小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	73.8	72.3	71.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	71.8	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	77.3	74.2	72.6
	B 書くこと	34.0	28.2	26.7
	C 読むこと	77.7	73.3	71.2
観点	知識・技能	73.3	70.2	68.9
	思考・判断・表現	71.3	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

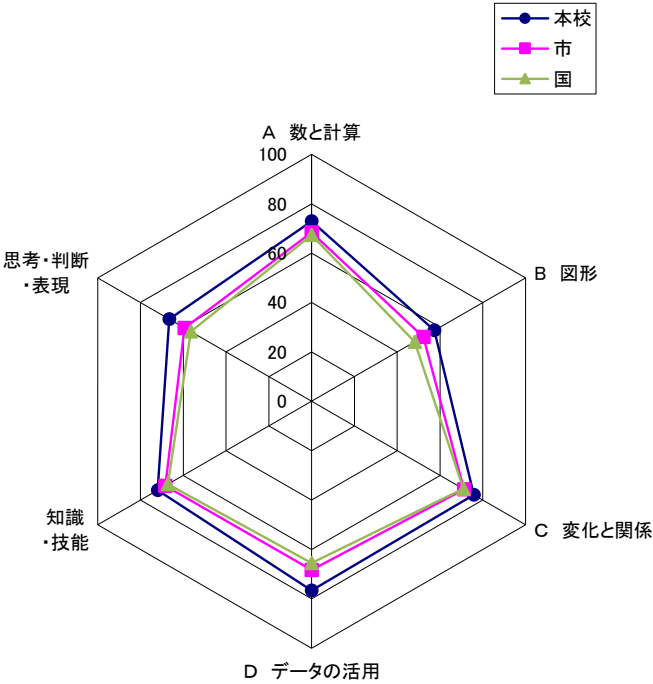
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	本校の平均正答率は、全国平均を2.6ポイント上回っている。 ○文章の種類とその特徴について理解できている。 ●送り仮名に注意して漢字を文の中で使う問題や敬語の使い方に関する問題に、やや課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・当該漢字だけに焦点を当てるのではなく、その前後の文脈を解読し、漢字の意味を推察させる習慣を身に付けさせる。 ・日頃から学習した漢字の意味を辞典で調べたり、その漢字を使った短文を作る練習を取り入れたりすることで、慣れ親しませる。
(2) 情報の扱いに関する事項	本校の平均正答率は、全国平均を8.4ポイント上回っている。 ○原因と結果など、情報と情報との関係についてよく理解できている。 ○情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができている。	・児童が、自ら問題意識をもち、問題解決の見通しを立て、必要な情報を収集し、情報を読み取り、情報を分類・整理してまとめる学習活動を授業内に構成していく。 ・「情報の扱いに関する事項」と「読むこと」を関連させた授業づくりを進め、情報と情報の関連付けの仕方や語句と語句との関係を表し方の定着を図っていく。
A 話すこと・聞くこと	本校の平均正答率は、全国平均を4.7ポイント上回っている。 ○話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をすることが、よくできている。 ○目的や意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることができている。	・国語の時間だけでなく、特別活動や他教科の学習でも話し手の意図を捉えながら意識して聞くよう、指導する。 ・理解を深めるためにわからなかったことを質問したり、正しく理解できているか確認するために質問したりするときの言い方などを具体的な場面を想定しながら指導し、目的に応じ工夫して質問ができるようにさせる。
B 書くこと	本校の平均正答率は、全国平均を7.3ポイント上回っている。 ○図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することがよくできている。 ●文章を正しく読み取り、読み取ったことを整理して文章に表す力を高めていく必要がある。	・授業の中で、自分の考えを理由を明確にしながらいったり、友達と文章を読み合ったりする活動の充実を図っていく。 ・学習のまとめや振り返りの際に、大事な言葉を指定してまとめさせたり、調べたことや読み取ったことを理由や事例にして自分の考えを書いたりする活動を取り入れる。
C 読むこと	本校の平均正答率は、全国平均を6.5ポイント上回っている。 ○目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができている。 ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができている。	・物語文で出てくる表現の意図を考えさせたり、どのような表現が効果的なのかを考えさせたりする。 ・様々な資料を活用した読み取りを、今後も授業の中で取り入れていく。自分で資料を作成する活動と関連させていくことで、表現力、読解力の向上に努める。

宇都宮市立戸祭小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	72.9	68.4	67.3
	B 図形	57.4	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	75.8	71.2	70.9
	D データの活用	76.6	68.3	65.5
観点	知識・技能	72.0	68.4	67.2
	思考・判断・表現	66.6	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○本校の平均正答率は全国平均を5.6ポイント上回った。 ●「 $(151+49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める」という、計算のきまりについて考える設問の無回答の割合が、県の割合の2.2倍であった。 ●「全部の椅子の数を求めるために、 50×40 を計算する」設問の平均正答率は、県平均を7.6ポイント下回った。	・問題文をしっかりと理解するために、丁寧に読むことを習慣化させることで、何を求めようとしているのか適切に把握させたり、問題の場면을具体的に理解できるよう、日ごろから図や数直線に表現させたりする活動を取り入れていく。 ・答えを正確に求めることに加え、計算の手順や考え方などを言葉で説明できるような場面を設定する。 ・記述式の解答に苦手意識を感じないよう、日ごろから自分の考えを書く活動も取り入れていく。
B 図形	○本校の平均正答率は全国平均を9.2ポイント上回った。 ○「テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く」設問では、本校の平均正答率は県平均を11.6ポイント上回った。 ○どの設問も平均正答率は国や県の平均を上回っている。	・図形を分解したり、構成したりする具体的な操作活動を取り入れることにより、既習の公式を使って求積できることを繰り返し学習できる機会を設ける。 ・辺の長さや角の大きさ、頂点の数など図形の構成要素に目を向けさせることで、それぞれの図形の特徴を正しく理解させる。
C 変化と関係	○本校の平均正答率は全国平均を4.9ポイント上回った。 ○「椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く」設問では、本校の平均正答率は国や県の平均を10.3ポイント上回った。 ○どの設問も平均正答率は国や県の平均を上回っている。 ●「示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ」という設問では、無回答の割合が国や県の平均と比べ高い。	・基準量と比較量について、様々な場面を取り上げて、繰り返し学習できる機会を設ける。 ・百分率と小数、小数と分数といった表し方の変換の活動を取り入れ、割合には様々な表し方があることを理解させる。 ・記述式の問題への苦手意識を無くすため、日ごろから自分の考え方を書いたり、説明したりする活動を行う。
D データの活用	○本校の平均正答率は全国平均を11.1ポイント上回った。 ○「運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める」設問では、国や県の平均正答率を10.5ポイント上回った。 ○どの設問も平均正答率は国や県の平均を上回っている。 ●「二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ」設問では、無回答の割合が県平均と比べ高い。	・それぞれのグラフの特徴や活用する場面を考え、目的に合わせてグラフを選択できるようにする。 ・調べ学習などの機会を逃さず、グラフや表を使ってデータを分類する活動を意識的に取り入れていくようにする。 ・答えを出すだけではなく、なぜそうなったのか、どこからそのことが分かるのかを明確に意識させた授業を展開する。

宇都宮市立戸祭小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対して、「当てはまる」と回答した児童の割合は、64.5%で、県や全国の割合よりも高い。また、「友達関係に満足していますか」の質問に対する割合も、72.0%と県や全国を上回っている。さらに、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対する肯定的回答は、全国のそれよりも5ポイント高い。これらのことから、教師との関係性だけでなく、友達との関係性も良好であることが、学校に対する前向きな意見につながっていると考えられる。

○「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の質問に対して、「よくある」と回答した児童の割合は、69.9%で県や全国の割合を大きく上回っている。このことから、本校の児童は、自分の生活に満足していて、物事に前向きに取り組める状態であることが考えられる。児童会活動等、さらに児童が主体となって活動できるような取組を工夫していきたい。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対して、「当てはまる」と回答した児童の割合は、50.5%で、県や全国の割合よりも高い。このことから、本校が「学び合い」を通して、より主体的に学ぶ児童の育成を目指してきたことが、良い結果につながっていると考えられる。今後も、各教科等を通して、友達と関わる活動を工夫していきたい。

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問に対し、「当てはまる」と回答した児童の割合が51.6%で県や全国のそれを大きく上回っている。

●「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」の質問に対して、30分以上読書をする児童の割合が61.3%で、わずかに全国の上回った。一方で、1時間以上読書をする児童の割合は14%で全国のそれを下回った。さらに、10分より少ないか全くしない児童が依然として38.8%の割合で存在する。引き続き、読書への興味関心を高めるための取り組みを継続して行っていきたい。

●「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という質問に対して、100%の児童が肯定的回答をしている一方で、「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問に対しては、「ほぼ毎日」と回答した児童の割合が19.4%で全国のそれを下回った。各教科等について、PC・タブレットを効果的に使用できる場面を吟味し、活用の機会をさらに増やせるようにしたい。

宇都宮市立戸祭小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的で深い学びの学習に取り組む児童の育成 ・読書時間の確保と習慣化の構築	・児童に本時の授業や学習全体の流れについて見通しをもたせる。それにより、やるべきことが理解しやすくなり、活動の方向性を具体的に考えることができる。よって自らの能力を生かして問いに挑戦しようという意欲がわくと考える。 ・友達と話をし考えを広げたり、他者と関わって問いを解決したりする場を設ける。その取組により、自分の学習に有効であると感じることで、一層双方向のやりとりが充実し学習への効果が上がると考えられる。 ・朝の読書や読み聞かせによる本に触れる場を引き続き設けることや学校図書館司書や委員会による本に親しむ機会の充実を図っていく。	・級友との話し合いを楽しんでいると感じたり、自分の考えを深めるために有効であると考えたりする児童の割合が平均を上回っている。普段から互いに意見交換をして、異なる意見に触れている機会が多く、その意義を実感している児童が多いことがうかがえる。引き続き、様々な角度から課題に向き合えるよう、話し合い活動等を充実させていきたい。 ・「学校の授業以外に1日当たりどれくらいの時間、読書をしているか」という質問に対し、「全くしない」と回答した児童の割合が23.7%であり、全国の平均をわずかに下回った。朝の読書の時間をしっかりと確保したり、図書委員会による各季節やイベント等に関する読書活動の推進への取組を充実させたりすることで、少しずつ良い結果につながっていると考えられる。引き続き、児童が本に親しめる機会を設けたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・読書に親しむ児童が増えてきているが、依然として読書量が少ない児童がいること。 ・タブレットの活用機会が県や全国に比べて少ないこと。	・読書の良さを伝える機会を設ける。 ・タブレットを活用する機会を増やす。	・朝の読書の時間をしっかりと確保したり、良い本の紹介をしたりなど、本に親しみがもてるような活動を継続して行う。 ・各教科等において、タブレットを効果的に使用できる場面を増やし、成果と課題を教職員間で共有していく。